令和元年度　事業報告

かつどう　部会

部会長　小林真由美（廣望会）　副部会長　三井　絵美子（森と木）
久保田明子（信濃の星）　大西　明美（絆の会）　大野　高広（社会事業協会）
ケアマネ連絡会　相談員　川俣　伸枝（絆の会）　相談員　小山多恵子（森と木）
長野市障害福祉課担当者　牧野　郁夫　運営委員会　岸田　隆（森と木）

１、年間テーマ

生活介護事業所連絡会、地域活動支援センター連絡会にて共通課題の共有と情報交換を通し相互関係を築く。

地域活動支援センター連絡会においては、あり方と意義を深める機会とする。

２、部会等の開催状況

日時		会場	人数（人）	部会のテーマ	主な内容
月	日				
７	１２	希来里	２５	地域活動支援センター連絡会	事業所紹介、グループワーク
９	２０	いつわ苑	２１	生活介護事業所連絡会	事業所紹介、グループワーク
１２	４	ぴあふれんず	２０	地域活動支援センター連絡会	事業所紹介、グループワーク
１	３１	ワンズハウス	２５	研修会	発達障がいの特性を理解する
２	２６	ハーモニー桃の郷	１５	生活介護事業所連絡会	事業所紹介、グループワーク
３	６	森と木	７	かつどう部会まとめ	一年を通してのまとめ

３、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

４、課題について

（１）主な検討課題

【生活介護事業所連絡会】
☆「生活介護事業所（就労Ｂ型含む）の全国調査」との比較を通して
全国調査を通し、全国平均と自身の事業所、また全国と長野市とを比較検討することで、自分たちがそれぞれどのステージにいるのか、例えば自分たちの現状が必ずしもスタンダードでないことが見えてくる。そこから何ができるのか、どのような方向性をもってこの事業に取り組めばよいのかを考える機会となった。
☆連絡会で挙げられた意見からピックアップしたキーワード①新規利用者の受け入れが難しくなってきている②日課等のプログラムについて事業所内だけでは限界があるため、他事業所と共同でできるような垣根を超えた活動はできないか③入浴希望者が多いが対応しきれていない等、様々な意見が交わされた。

【地域活動支援センター連絡会】
☆長野市の地域活動支援センター事業について
昨年度、地域活動支援センター事業（以下、地活事業）について長野市からの説明を受け、その後学習会を開催し今年度を迎えた。事業形態に変更があったなかで来年度への見通しについて長野市担当者より説明をいただいた。来年度においては、今年度と同形態で事業を進めること、地活事業についてのワーキンググループで検討することが示された。
☆地域活動支援センターに求められるニーズと課題の検討
障害の裾野の拡大に対応してますます重要な役割となっている。ひきこもりの方等、障害者手帳や診断のないグレーゾーンの方も増えているなかで、地活としての機能、求められている役割を再確認し、今後のあり方や課題についてのグループワークとした。

【研修会　障がい理解のための学習会として「発達障害の特性を理解する」】
☆「発達障害の基礎的理解」として発達障がいサポートマネージャー岸田氏より、発達障害とは何かという基礎的要素から、①ASD と ADHD の各々の特性について②特性には５つのタイプがあり、そのタイプごとの特性を理解した上で共感的支援を実践するために大切にすべきこと等、講義して頂いた。講義を受け、個人ワーク、グループワークの事例検討を行うことでひとり一人が障がい理解のための学習会となった。

（２）検討の目的と結果（現状）

☆各事業所連絡会について

（目的）生活介護、地活事業所を対象に事業所紹介、テーマに沿ったグループワーク、情報交換を行う。

（結果）これまで生活介護、地活事業所のスタッフを対象に呼び掛け、その形式も明確になってきているが、フリートークや施設の現状を話し合うというところで終始している現状もある。次年度においてはテーマを絞り、制度や加算等のことをテーマにするのであればそこに携わっているスタッフ、日常の課題であれば支援スタッフ、などテーマをさらに明確にすることでより濃い話合いができると考えられる。また、そこから抽出された課題を挙げていくという形もとれ、開催の形式について検討が必要。

☆前年度から引き続き地活事業のあり方について

（目的）前年度から引き続き地活事業のあり方についてテーマをもち、長野市担当者からの説明を受けたりグループワークが行われた。

（結果）引き続き地活事業のあり方について話し合われたことで、参加した皆さんが地活事業についての役割や機能を再認識し、これまでよりもさらに踏み込んだ話し合いが行われた点について成果といえる。

☆生活介護、地活事業それぞれの役割や機能について

（目的）各事業について役割や機能についての確認または知ることで、自分たちの取り組みについて客観的な比較や評価ができる。

（結果）各々の事業について比較や評価をしたことで、通所事業所（生活介護、就労含め）において、事業制度的には各々分かれているが、実際の活動内容としては違いのない部分がある。例えば、生活介護だと働かないというイメージがあるが、実際には全国的に働いている事業所の方が多いということなどがある。長野市においての通所事業所の役割を考えるという視点から、通所事業所が一同に介し合同連絡会のようなことが開催できるように検討したい。

（３）引き続き検討が必要とされる課題

- 各事業に沿った課題抽出から提言まで
- 各連絡会の開催目的、形式について
- 研修会の開催方法について（テーマの設定、参加者を増やすためには）
- 部会への参加アナウンスの見直し

（４）部会の運営体制について

・かつどう部会執行部役員会　（年５回開催）
・生活介護事業所連絡会　（年２回開催）
・地域活動支援センター連絡会（年２回開催）
・障害理解のための学習会　（年１回開催）

５、総括（1 年間を振り返って）

・ここ数年、活動の形式を引き継いで活動してきたことにより、部会としての活動の型が明確になり、今年度は踏み込んだ話し合いの場を設けることもできた。その部分を深めるためにも、来年度はより活動を強化していくことを念頭に進めていくことが必要である。
・生活介護事業所、地域活動支援センター各事業へ対応した部会ということもあり、連絡会は各２回の開催であったが、継続して情報交換等の場としての役割を担えた。
・今年度は、各事業についての役割や機能をあらためて認識することができたことで、各自の事業所の状況について客観的に比較検討ができ、今後の事業への取り組み方の見方に対し、ひとつ変化をもたらせたといえる。